

# HY-Tec Net通信

創刊号

【2001年1月号】

発行者  
本荘由利テクノネットワーク

企業間・産学連携による新技術・新事業の創出

## CONTENTS

### メッセージ

あいさつ

活動の経過紹介

HYKK 異業種交流フォーラム参加報告

創刊号に寄せて

創刊に寄せて

HY-Tec Net 通信発刊によせて

秋田大学地域共同研究センターの近況

産学交流事業の新たな展開を望む

秋田高専における産学連携の進捗状況について

羽田電線(株)

システムポート(株)

代表 久津輪 社

幹事長 須藤 一知

幹事 吉原 敏郎

一橋大学大学院商学研究科教授

東北大学未来科学技術研究センター助教授

B.D.C.N 代表幹事

秋田大学地域共同研究センター長

秋田県立大学システム科学技術学部長

秋田工業高等専門学校長

事務局参与 渡部 充・佐藤 誠

行事情報・編集後記

関 満博

長平 彰夫

高橋 哲生

松永 利昭

神山 新一

石亀 希男

### 連載

### 「学」会員PR

### 「企業」会員PR

### ITeCフォーラム・イノベーション



HY-Tec Net 代表  
（株）秋田新電元代表取締役 久津輪 社

## あいさつ

HY-Tec Net 代表 (株)秋田新電元代表取締役 久津輪 社

明けましておめでとうございます。20世紀の最後に我々ハイテクネットワークはスタートしましたが実質的な活動は本年、即ち21世紀の初年からであります。皆様の絶大なる参加意識と実際の行動をお願いするものであります。

さて21世紀がどんな世紀になるか判りませんが、最低限現状の延長即ち情報通信に関する技術、産業の発達と環境保護に関するそれらも同様に発達することは確実でありましょう。どのような発達であれ我々本荘由利地域、秋田県は自己主張を強く行い、社会貢献して存在の意義を高めなければ取り残され、ますます過疎化は進行し、どの世代にも魅力のない土地になってしまうでしょう。

存在意義を高めるためにどうするのか？この問題は県や市町村、政党、各種団体、教育機関、メディアなどが永年模索苦悩してきた最重要課題であり、今まで多くの提案が出されてきていますが余り功を奏しているようには思えません。

これからも沢山出てくるでしょう。手っ取り速いのは画期的な技術、産業イベントなどなどを期待することです。しかし、そのための努力をすることなく期待するべきではないでしょう。

どのようなことがこれからの成功事例になるか判りませんが、その中の一つとして**最小限地域の人々が食うために協力する**ということが入ると思います。これはかけ声だけのいい加減の協力ではなく真剣に力を合わせるという意味です。本荘由利地域では各種団体・各企業産学官の協力は余りなく、共同で何かをつくったり、売り出したりというのはほとんどないと思います。将来、我々は大手企業や他の地域との競争で有利な立場を築くには力を合わせるということが必要条件になるものと予想します。一人一人又は一企業、一大学ではできることが限られますが、多くのこれらが力を合わせれば、かなりの人材が居り、かなりの技術力となり、思っているよりはるかに高度の製品ができるようになると思えるものです。本荘由利に頼めば何とかなる、面白いものができるという気持ちをいろいろな人々に持たせることが必要条件...

そのためにこの組織が少しでも役に立つことができれば設立の意義があったということになります。今、この目的のための具体策を幹事団にお願いし、まとめつつあるところです。皆様方この通信に載っていることに対して本音をばつ付けて下さい。そしてよりよい活動をつくり、やり始めようではありませんか。ハイテクネットワークがうまく動くかどうかは、あなたが参加するかどうかにかかっているのです。

## 報告活動の経過

HY-Tec Net 幹事長 (株)秋田新電元技術部長 須藤 一知



HY-Tec Net 幹事長  
(株)秋田新電元技術部長 須藤 一知

昨年9月29日に、会員皆様の賛同を得て設立されました、ネットワークのその後の活動につきまして、本誌を利用し皆様を紹介いたします。設立総会后、四度の役員会、幹事会を開催し、本年度の重要事業方針であります、研究会・分科会の発足を決定しました。また、ネットワークの活動状況を、広く会員の皆様にお伝えするための機関誌「HY-TecNet 通信」の発刊も決定し、今日この様に皆様にお読み頂いております。12月8日には、北上市で開催されました、東北の中央に位置する四地域(本荘・由利、横手、北上、釜石)の力強い横軸連携を指す「北央の横断連携軸、通称HYKK異業種交流フォーラム」にも参加し、当ネットワークの活動状況報告、他地域との情報交換、この先の協力等についての交流をしております。以上が設立総会以降の、大まかな活動状況であります。つぎに研究・分科会について紹介いたします。正式に発足する研究・分科会は次の三つになります。

生産・加工技術研究会  
環境・リサイクル技術研究会  
農業に関する研究会

各研究会ともに、参加者による「話題、問題、知りたい、聞きたい、困りごと...」等を出して頂き、体系的に整理した後テーマ毎の分科会を自然派生させます。テーマ内容によっては秋田大学、秋田県立大学、秋田高専の会員教授に、専門分野の助言者として参画して頂くという形で進める予定であります。まずは、研究会に参加する人を募ることが最初にやるべきことであり、多くの人が参加して頂くことを願っております。

さて、今回発足が決まった研究・分科会は、役員等からの提案型であります。会員の皆様がどんなものに興味があり、自分だったらこんな点で協力できる、あるいは困っていること、こんな研究が将来役にたつ、等色々意見を聞き集め、ニーズ型研究・分科会を次ぎに発足する予定であります。そのためには会員の皆様から広く意見を聞く必要があります。是非、協力をお願いいたします。また、こんなことを見たい、知りたい、聞きたい、勉強したい、ということがありましたら、勉強会開催の参考にさせて頂きたいと思っておりますので、重ねて協力をお願いいたします。

ニーズ型研究・分科会の提案、勉強会の提案について、気軽に意見をお寄せください。記事の最後に記述します、FAXNo、Eメールアドレスに、連絡をお願いいたします。尚、会員の皆様で、Eメールアドレスをもちながら、本会に届けていないケースがありましたら、同様に連絡していただければ幸いです。

最後に、12月末現在の会員数を報告いたします。法人会員数22社、個人会員数157名であります。これだけの仲間が集まっております。会員の皆様の力を結集できれば、ネットワークの目的である「産・学・官が一体となり、新技術、新事業を創出し、地域社会に貢献する」も決して夢ではありません。考え方、業種の違いを乗り越え、この目的に向け役員一同懸命に努力するつもりです。会員の皆様におかれましても、是非ご協力をお願いいたします。

連絡先 (株)秋田新電元飛鳥工場内 HY-Tec Net 事務局

技術部 須藤 一知 Eメールアドレス kazutomo\_Sutou@AkitaShindengen.co.jp

技術部 岡本 留美子 Eメールアドレス rumiko\_o@AkitaShindengen.co.jp

FAX-NO 0184-24-4226

## HYKK異業種交流フォーラム参加報告(2000.12.8開催)

HY-Tec Net 幹事 小林工業株取締役 吉原 敏郎

H(本荘)・Y(横手)・K(北上)・K(釜石)と107号線を東西に結ぶラインを対象に、四地域内の産官関係者が一堂に会するフォーラムが昨年12月8日、北上市で開催されました。今回が第1回の交流会で百人余りの関係者が集まりました。「本荘由利テクノネットワーク」からは、久津輪代表をはじめ17名が参加しました。

この会は「各種の情報交換などを通じて四地域内にある企業個々が、経営資質の向上に関する参考情報を収集し、新たな人脈の構築によって県境を超えた形での営業や取引の拡大など、21世紀に向けたビジネスチャンスをつくる機会にしたい。」を目的とします。



HY-Tec Net 幹事  
小林工業株取締役 吉原 敏郎



HYKK 異業種交流フォーラムの様子

会は、経営コンサルタントによる基調講演、各地域の代表による活動状況報告、意見交換会と進められ、須藤幹事長から、**1.「本荘由利テクノネットワーク」設立の経過報告、2.今後の活動計画として、HY-Tec Net 通信の発行、研究分科会の設置、3.次回の本フォーラムを本荘市で開催したいとの提案** が発表されました。本荘市開催の提案は満場一致で承諾されました。フォーラム開催の際には会員皆様のご協力をお願いいたします。

開催地である北上の参加者は48名。機械、電気製造業のみならず、食品製造、建設、ISOコンサルタント、通信・放送、銀行、ソフトウェア開発、造園、タクシー、印刷等々、業種の境なく、元気な企業、人々が集まったという感じがします。交流会で同じテーブルとなった印刷業の営業部長(30前半、すらりとした美人)はイベント、社史編さん等の企画も行うと盛んに営業活動をしていました。また、金属加工業では材料の在庫情報を公開し、特殊な金属材料を共有するシステムが実施されているようです。テーブルには地元のお菓子やさんからの提供ということでお菓子が並べられており、おみやげをいただいてきました。**北上は動いている、なにかが生まれてくるというマグマが感じられました。**

シリーズ

## 顧問トピックス



HY-Tec Net 顧問  
一橋大学教授 関 満博

創刊号に寄せて  
HY-Tec Net 顧問 一橋大学大学院商学研究科  
教授 関 満博

昨年9月にHY-Tec Net がスタートし、早速、会報の発刊が開始されたことを、まずお祝い申し上げます。昨今、かつての異業種交流運動をさらに高めようと、全国的にこうした動きが強まっており、本荘・由利も体制が整いつつあることを象徴しているようであります。本荘・由利の親しい友人であり、ライバルでもある岩手県北上でもほぼ同様の組織が生まれており、今後、ますます活動の幅が広がっていくことを期待します。

私は3歳から小学校5年生までの9年間ほどを本荘で育ちました。現在、市役所になっている場所にあった鶴舞東小学校に通っていた頃を鮮明に覚えています。長じて、現在は「地域産業振興」を研究課題にしており、日本全国から中国を中心とするアジアの諸国をキャンパスとして活動しています。特に近年は、**対外的には中国～朝鮮半島を中心とする北東アジア地域との間での産業・企業の協力のあり方、また、国内的には全国に広がる地方小都市の産業振興、特に高齢社会との関係で注目しています。**

本荘はまさに日本の地方小都市の良さを典型的に示している所であり、

こうした町が希望を抱けることが日本の将来にとってたいへん重要だと考えています。実際、北東北には産業振興に取り組む興味深い小都市が幾つもあります。本荘をはじめ、岩手県北上、花巻、宮古、釜石、山形県長井などが代表的な所ではないでしょうか。是非、これらの都市と関係を深め、エネルギーを高めながら、新たな可能性を探っていって欲しいと思います。

これから時々、コラムに登場し、全国各地からアジアの各地の興味深い出来事を皆様に伝えていきたいと考えています。

### 創刊によせて

HY-Tec Net 顧問 東北大学未来科学技術共同研究センター  
助教授 長平 彰夫



HY-Tec Net 顧問  
東北大学未来科学技術共同研究センター  
助教授 長平 彰夫

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、設立された「本荘由利テクノネットワーク」の発展に少しでもお役に立つべく、産学官連携と技術移転について一言述べさせていただきます。

産学官連携とは、文字通り「産」、「学」、「官」がお互いのメリットのために積極的な係わりを有することであり、私は常々、次の3点を産学官連携の内容と考えております。第1は人材です。従来、企業側は新卒者の教育・供給を期待しており、学もそれに応えてきました。しかし、18歳人口が1992年の205万人から2000年には151万人、更に2010年には110万人に減少すると考えられています。一方最近、産業界からは社員の再教育の要請が高まっています。こうしたニーズに応えていくのも産学官連携の重要な使命と考えます。実は、東北大学未来科学技術共同研究センターでは、この人材育成のために、昨年9月から「エクステンションスクール」を開講し、技術経営プログラムを提供しています。現在、大学院生5名、社会人20名の計25名ですが、社会人の方で、企業から再教育のために派遣されてきている方もいます。

第2は、共同研究、受託研究、技術指導等です。これは、従来の産学官連携活動の中心であり、特に「産学共同」という方もいるぐらいです。しかし、ここで、重要なのは、秋田県立大学のような県立大学では、国立大学と比較して、制度整備が遅れていることが多く、実務的にこれが産学官連携を妨げる要因となっていることです。特に、昨年4月の「産業技術力強化法」第13条第2項で県立大学においても認められた「奨学寄附金」制度の導入は非常に効果的です。また、企業や教官の知的財産の帰属を決定するための「発明委員会」の設置等も重要です。企業への技術指導や技術経営の支援のための教官の「兼業」も役に立ちます。かくいう私も、昨年7月にベンチャー企業の設立に携わり、役員をしています。ルールは刻々変わりつつあり、迅速に取り入れていくことが必要です。

第3が技術移転です。技術移転とは、大学の研究成果を知的財産権化とし、それを商品化のために企業へ移転することです。しかし、特許さえ取得すれば技術移転が可能であるとの風潮が出てきているのは残念なことです。技術移転のポイントは「競争力の移転」であることです。したがって、大学の研究成果が企業の競争力の強化につながるよう産学を仲介する人材が必要になってきています。この人材がリエゾンオフィサーであり、それを担うのが「リエゾンオフィス」です。このリエゾンオフィサーが縦横無尽に活躍してこそ本荘由利テクノネットワークがその力を最大限に発揮することになります。

### HY-Tec Net 通信発刊によせて

HY-Tec Net 顧問 Business Design Consulting Net  
代表幹事 高橋 哲生

最初に本荘由利テクノネットワーク通信発刊おめでとうございます。

また当ネットワークの顧問としてご指名をいただき光栄に存じますと共に、その責任の重大さを改めて認識している所であります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、私は40年間地元製造業の中であって、日本はもとより世界の企業幹部、外国の行政機関との対話、訪問を通し、さらに退職後ここ1年半は県内企業を中心に県外も含めて約100社以上の企業を訪問し、社長はじめ幹部の方々と面談、工場見学をさせていただき、「世界に通じる秋田県産業の活性化と発展」について考えてきましたが、この通信発刊同様、今年からその具体的なフォローにより、少しでも皆様のお役に立てればと思っております。



HY-Tec Net 顧問  
Business Design Consulting Net  
代表幹事 高橋 哲生

かねてから私は企業在職中、成果・業績直結型のマネジメントにこだわり、マーケティング、新製品開発、生産技術開発、人材育成にいたるまで、課題の深耕、継続、集積への仕組みづくりを科学的な大局と強いリーダーシップで実践してきました。一部関係者からのいろいろな批判を承知で、何とかハンディのある秋田県にあっても、世界に通じる技術と成果を示すことに情熱を燃やして来ましたが、今になって考えてみますと、市場競争社会で通じるベストプラクティスを独自のコア・コンピタンスの醸成によって実践しただけのことでした。

この本荘由利テクノネットワークは世界中にチャンネルをもつ会員の方々の交流の場であることから、IT革命時代にふさわしく、誰でも身近に簡単に、しかもスピーディに必要な情報入手が可能であり、前述の独自のコア・コンピタンスの醸成による成果への実現もさらに容易となる事から、この**ネットワークによる情報の共有化、ディスクロージャーは非常に重要**であります。

しかしよく考えてみますと情報は活用され、個人のイノベーションの創出につながることに意味があり、従ってこのネットワークも単なる出会いの場であってはならず、陽明学で言われる「知行合一」、所謂イノベーションとしての実践とその成果が伴わなければなりません。そこで会員の皆様の活用の成果を期待する所であります。

最後に本荘由利テクノネットワークは、産官住の強烈なバックアップのもとに誕生したことを考えますと、眼前に控えた知的鳥海山、秋田県立大学を軸足に関係者皆様の総力により、地域発展に一刻も早く貢献しなければならないと思っています。幸い私も県関係機関、県立大学にも関与させていただいておりますので、微力を尽くす所存でありますと共に、このテクノネットワークのご成功を心よりお祈り申し上げます。

第1回  
「学」会員PRコーナー

私からのPRメッセージ！



秋田大学地域共同研究センター  
センター長 松永 利昭

秋田大学地域共同研究センターの近況

秋田大学地域共同研究センター長 松永 利昭

本荘由利テクノネットワークの発足おめでとうございます。立ち上げにご苦労されました御関係の皆さまに心から敬意を表します。

さて、私ども秋田大学地域共同研究センターの最近の状況について、この場をお借りして簡単にご紹介させていただき、**情報交換などお互いに協力関係を進めることで、地域の発展に貢献**できることを期待する次第です。

秋田大学地域共同研究センターが発足したのが平成5年ですから、既に8年になります。(因みに、渡部充先生には初めの3年程、専任教官としてセンター発足を支えていただきました)。客員教授によるセミナーを始め、高度技術研修、科学技術相談など種々の活動をしてはいますが、中でも共同研究は大きな柱です。平成10年度から今年度までの3年間の総件数は92件で、年平均30件余りです。金額的にはここ2、3年やや減少傾向でしたが、今年は少し持ち直しています。分野別に見ると、いくつかにまたがるものもあるので概略ですが、圧倒的に工学系が多く、ごく一部、医学関係或いは理学系及び生活文化関係のもの等が含まれます。工学系では、材料/物質系、電気/

電子/情報系、機械系、土木系等各分野の研究がなされていますが、特徴的なのは、資源/リサイクル/環境分野が約25%を占めていることと、福祉/健康分野とでも言うべき分野が10%程になります。

共同研究の相手先の地域は必ずしも秋田に限定されているわけではないのですが、最近では秋田地域の企業が増加する傾向で、約2/3を占め、残りは東京周辺他全国になります。科学技術相談が共同研究に発展するケースも徐々に増えて

きていますので、地域に浸透してきていると言うことかと思われます。

さて、産学連携がスムーズに進むためには、当然のことながら、**大学人が持っているものを知っていただくこと**と、逆に**企業側が何を望んでいるかを我々が的確に把握**することが必要でしょう。研究開発が順調に進むためには、まだ形が見えて来ない辺りからの意志の疎通が重要ですから、本通信のように連携のための具体的な場を作られていくのは、大変でも意義の大きいことで、我々にも大いに参考になるものです。

これからの益々のご発展をお祈り致します。



HY-Tec Net 顧問  
秋田県立大学システム科学技術学部  
学部長 神山 新一

## 産学交流の新たな展開を望む

秋田県立大学システム科学技術学部長 神山 新一

地域住民の熱望により当地本荘由利地区に開設されました秋田県立大学システム科学技術学部としましては、開学以来2年が経過しようとしている段階であります。着々と大学としての整備充実に努めているところでございます。産学連携に係わる大学としての取り組みとしては、リエゾンオフィスの高橋哲生客員教授や坂本学科長を通じて、また、教員個人への直接の依頼により共同研究、技術指導などの連携が進められてきております。

しかし、大学として、**より効果的な産学連携への取り組みを組織的に推進**する時期にきているとの判断から、以下のような**企画の実現に向けて準備**を進めております。

### (1) 技術分野別研究会の設置

地域企業のニーズに基づき、本学教員が主幹となって技術分野別研究会を設置し、企業の技術・分野別課題の解決に向け機動的に濃密な技術支援を行うため、当面5つの研究会の開設を県に要求しております。

### (2) 大学院の早期設置

[企業は人なり]という言葉もあります。21世紀に活躍できる有能な人材を育成すること、そして、現在、社会人として活躍している技術者、経営者にもリフレッシュ教育の場を提供できるように、本学部では大学院システム科学技術研究科を当初計画より1年前倒して、平成14年4月に開学するための準備を進めております。

### (3) 国際共同研究、技術開発への取り組み

産学交流事業の新たな取り組みとして、秋田県としてのややもすれば閉塞的な側面を打破するために、長期的な展望のもとに、国際的な共同研究、共同技術開発を通しての新たな事業展開に結びつけられるような構想もぜひ実現したいものと考えております。21世紀のスタートにあたる本年10月には本荘由利産学共同研究センターも完成する年であり、その開設を記念して10月中旬には国際サイエンスフォーラムを開催すべく準備を進めております。

このような大学にとっても産学連携の新たな取り組みが問われている大切な時期に、時を同じくして本荘由利テクノネットワークが本格的な活動を開始することは非常に心強い限りであります。相互協力の下、秋田県として特色ある産学交流事業が進展することを切に希望するものであります。



HY-Tec Net 顧問  
秋田工業高等専門学校長 石亀 希男

## 秋田高専に於ける産学連携の進捗状況について

秋田工業高等専門学校長 石亀 希男

本校では、本科5年間の一貫教育、平成6年度に設置された専攻科を加えれば7年間の教育がおこなわれている。この間、多くの若手研究者が実践的教育を受け、産業界に巣立ち、産業界の担い手として社会に貢献している。

更に、社会が必要とする人材の育成と地域社会への貢献を目的として産学連携を重要な施策として取り上げており、積極的に推進している。平成4年には産学連携を目的とした組織として産学協力会が会員企業数40社をもって発足し、現在の会員企業数は67社まで増加している。主な活動は交流研修会、交流講演会および会誌発行などを実施しており、地元企業との各技術分野における情報交換、人的交流が進められている。

これまでの技術交流会を更に進めるため、**平成13年春には地域共同テクノセンターが完成**し、まもなく技術交流のための実施場所、機器等が準備され

る予定であり、さらなる成果を期待している。

一方、委託研究の過去5年間の推移を見れば、毎年20件ほどの共同研究がおこなわれており、県内の有力な産学交流センターの件数と遜色ない程度の研究がおこなわれていると考えている。

今後の課題としては「**地域に開かれた秋田高専、地域共同テクノセンター**」を目指し、当校のポテンシャル、即ち、当校の保有技術、保有しようとしている技術、また保有機器で何ができるかを学外に公開し、「**外から高専の技術が見える**」ように努力していきたい。今後、高専の教育活動、研究レベルを引き上げるためにも地元企業のご支援とご鞭撻を賜りたい。

最後に、本荘由利テクノネットワーク機関誌「HY-Tec Net 通信」の創刊をお祝い申し上げると共に、秋田県からインバクトのある新しい技術を発信できるような役割を果たせられることを期待している。

## 第1回 会員企業PRコーナー

# オラほの会社も会員だべ！

## 羽田電線株式会社秋田工場

所在地：〒015-0083 本荘市滝ノ沢字岡崎 76-2

TEL：0184-29-2907

FAX：0184-29-2416

代表者：取締役社長 井島 幸二

創業：昭和45年5月

従業員：22名

製造品：産業用ロボット・医療機器用・通信機器用電線  
パソコン等各特殊電線導体の設計・開発・製造



本荘由利テクノネットワークの発足、また機関誌のご創刊、誠にありがとうございます。

その記念すべき創刊号に弊社をお取り上げいただき、甚だ恐縮しておりますが、これも会員皆様に弊社をご認識いただける好機と解し、簡略ながらご紹介させていただきたいと思っております。

弊社は昭和45年5月川崎市(現本社所在地)で創業し、平成3年に量産工場として私の生誕地本荘市滝ノ沢に秋田工場を立地しました。従業員数は、本社・秋田工場を含め22名、主に産業用ロボット用・医療機器用・通信機器用電線、パソコン等各種特殊電線導体の設計・開発・製造を行っています。

現在弊社が注力しているのが医療機器用電線導体の製造で秋田工場で行っています。

これは、人体の臓器内に入り検査治療を行う機器に使用されるもので、**線の細さは16ミクロンと国内は最細**であり、また生産は弊社が初めてでありますから、この電線導体を扱っている企業は、関東地区でもまだ弊社を含め1、2社という状況です。

この開発・製造は、長年電線導体製造に特化してきた弊社技術の総力をあげ、約2年半の歳月を要しました。くしゃみ一つで断線してしまう繊細な素材を使用するため、製造工程・品質管理・労働環境の改善及び徹底を図り、また体内に入る製品であるため、殊品質検査においては、社員のモノづくり以前のステータスが重要であると考え、モノづくりに対しての責務・心構えについて再教育を行いました。その成果が認められ、秋田県が平成11年度から実施した「**ベンチャー飛躍支援事業**」の**第1号企業**として認定を受けました。

弊社は、創業以来お得意様のニーズに徹し、信頼の製品を提供することをモットーとし、常に一步先ゆく製品の開発を心がけてきました。お陰様で今年で創業31周年を迎え、新ミレニアムと共にまた新たな第一歩を踏み出すことができました。新時代は、優勝劣敗がはっきりする厳しい時代と考える一方、私はやる気のある企業、個人にとっては可能性に満ち溢れた時代とも考えています。今後は、これまでのモットーを継続しつつ、その時々に対応策として勝ち組に残れる企業になること、**何が何でも勝ち残るといふ強い意志を持ってその行動を取る**こと心がけ、**他にない特殊性と機動性を日々培っていき**たいと考えています。

最後に本誌を通じ、会員仲間の和がより多く、太く、大きく、幾重にも広がりますことを心よりご祈念いたします。

## システムポート株式会社

所在地：〒015-0801 本荘市美倉町 13-1

TEL：0184-24-5592

FAX：0184-24-5558

代表者：代表取締役 渡辺 芳紀

創業：昭和62年

従業員：22名

製造品：パソコンソフトウェアの開発・販売  
「コンパスター」等

URL：http://www.systemport.com./

E-mail：nabe@systemport.co.jp



この度は、機関誌「HY-Tec Net 通信」創刊おめでとうございます。この記念すべき創刊号に当社をご紹介頂き大変光栄に存じます。本荘・由利の企業や地域の方々に当社の業務を知ってもらおう大変良い機会であり、またこれを機会に色々な業種の方と広くお付き合いできればと思っております。

さて、**当社はパソコン用のビジネスパッケージソフトウェアを開発販売するソフトメーカー**です。設立(1987年設立)当初より「データ資産の活用」をテーマとしたデータ交換ソフトを中心に開発して参りました。当社の主力商品「コンパスター」シリーズは、パソコンはもちろん専用ワープロ、Mac、汎用機、オフコン等で作られた様々なデータファイルを相互に活用できるようにするソフトウェアです。このソフトを使用すれば、機器が変更になった際も一から文書を作り直したりする必要がなくなります。企業や官庁においてはこれまでバラバラに管理されていた書類などが、同じ形式のファイルで一元的に管理できるようになります。

また、**近々発売予定の「アドレスステーション」**は、メールソフトやはがき作成ソフト、携帯メモリ管理ソフト、等々各種アドレス帳のデータ交換とシンクロナイズ(同期)を可能する、これまでにないコンセプトを持つ製品です。複数のアドレス帳の内1つだけ修正するだけで、他のアドレス帳のデータも更新する機能や、メールのアドレスを携帯メモリ管理ソフトに交換してiモードで活用したい等々、いろいろな用途に使用することが出来ます。

さて、「IT革命」という言葉が2000年の流行語となりました。個人においては携帯の爆発的な普及により実感として理解されていると思いますが、**中小の企業においてITを考えると、まずはパソコンLANと、簡易なグループウェア、自社のホームページを構築することから始めてはいかがでしょうか。**当社においては、自社内にパソコンLANとインターネットを利用したグループウェア、Web上からのソフトウェア販売システムを構築し大いに利用しています。それ無しでは日常業務ができないと言っても過言ではありません。**今後これらの知識や技術を地元企業の皆様に提供するサービス業務なども手がけていきたいと考えています。**

まもなく本荘・由利においてもインターネット等の通信環境(常時接続、高度化)は劇的に改善されるはずですが、私は将棋が趣味ですが、インターネット上には素晴らしい将棋道場があり私も毎晩この将棋道場で見知らぬ人との対局を楽しんでいます。対局者の中には外国からアクセスする人もおり、自宅にいながら国外の人ともリアルタイムに対局することができます。対局は1時間近くかかる場合もあり、全ての人が常時接続の環境であったら益々このようなサービスが盛んになるでしょう。

最後に、本誌を通して会員同士の交流が益々深まり本会がますます発展することをご祈念申し上げます。

シ リ ー ズ

## エッセイコラム

創刊に寄せて

HY-Tec Net 事務局参与 本荘由利産学共同研究センター  
推進アドバイザー 渡部 充

いよいよ21世紀の幕が開きました。いろいろな分野で活躍されている有名な方が**21世紀は心の時代**であるといっていたのを思い出します。心という文字はいろいろなところで使われております。20世紀最後の年には若者達による多くの事件がありましたが、その都度若者達の心が病んでいるといわれました。その原因は家族の躰、学校の教育などに問題があるとの指摘が多くありました。昔から子供は親の後姿を見て育つといわれておりますが、メディアによるいろいろな情報を見たり、聞いたりできる現代社会では世の中の姿を見て育っていると考えた方がよいのではないでしょ





HY-Tec Net 事務局参与  
本荘由利産学共同センター  
推進アドバイザー - 渡部 充

うか。

来年度から新しい教育基本法が制定されるような報道がありますが、現在の教育基本法について一般にはよく理解されていないように思います。昨年末、文部大臣、教育基本法の改正に賛成の方とさわやか財団の理事長、教育基本法の改正に反対の方との討論がテレビで放映されていましたが、討論の時間が短かったこともあり、現教育基本ではだめだということがわかりませんでした。何か問題が起きるとすぐ何なにが悪いからだといわれます。確かに原因があるから結果がでるわけです。心の問題に関しては原因を究明して問題を解決することは極めて難しく、長い時間が必要であります。法律を変えることによって問題が解決できればこんなよいことはありません。

しかし、いくら立派な理念で法律や規則が作られても実施の仕方が悪ければ成果は期待できません。

さて、21世紀の新しい年は是非成果を出すような仕方を考え、実行する年でありたいと思っております。最初から立派な成果を出すことも重要なことですが、一つひとつの成果の積み重ねが特に重要であります。産学官の連携がいわゆるようになってから、かなり時間がたっておりますが、産学官それぞれに「人材の育成」が重要課題であるといわれ続けられております。昨年末に**本田技研工業株の元副社長**が秋田で講演された折に、**社長(リーダー)によって社員が別人のようによくする**というような話をされたことが報じられていました。産学官ともに人材を教育できるリーダーの存在が不可欠であります。**組織・個人の意識改革、体質改善がなければ人材の育成は無理**なのではないでしょうか。また**産学官の連携は相互理解がキーポイント**であり、できる限り本音で話し合える場を作り、お互いに情報交換を提供することが必要であります。昨年9月29日に立ち上げた本荘由利テクノネットワークは人材の育成、産学官連携の推進、地域の活性化等役立つよう会員の皆様の一層の努力が望まれます。お互いに持っている力を結集しましょう！

### 異業種交流、産学連携について

HY-Tec Net 事務局参与 本荘由利地域中小企業支援センター  
コーディネーター 佐藤 誠



HY-Tec Net 事務局参与  
本荘由利地域中小企業支援センター  
最初の異業種の師匠はミクロン精密の当時工場長(現会長)小島氏で特殊設  
コーディネーター 佐藤 誠

コーディネーターの使命は、創業希望者の構想計画から会社設立まで、事業の改革、新分野進出や研究開発、商品開発等について県内の大学や公設の試験研究機関をはじめ専門家、金融機関、行政などと連携して、**やる気のある方たちを応援すること**です。

私はS31年TDKに入社し、フェライトの製造設備の開発、保守を担当しましたがフェライトは加藤・武井両先生の発明でありどこにも先進例が無いので異業種から多くを学んで仕事を進めて参りました。それが出来たは小松工場長の教えによるものです。「社外の師匠を大切に、この人はと思う人がいたら知らせなさい会って私からもお願いするから」と言われ実際数人の師匠を得ました。今の異業種・産学交流を当時から実践できたのは小松さん卓見のお陰です。

備の共同開発を行いました。氏とは退職後の現在も交流が続いております。昭和40年代に工場排水で海を赤く染める公害を発生した時、その対策方法を秋田大学の赤上先生に依頼し、その研究結果を基に処理装置を作り対策に成功しました。それが私の産学連携の最初で、それ以来製品の改良研究など現在も連携は続いております。

また設備のトラブルで金属粉塵を飛散し周囲の田圃に被害を与えたときは県立大の佐藤敦教授に協力をお願いして調査から対策方法まで教えて頂き解決しました。これがご縁で八郎潟残存湖の浄化研究に必要なゼオライト培養土の試験品を提供するなどの発展がありました。この連携で地域の人々の信頼を回復出来たのは何よりでした。

以来私にとって大学は困ったときの駆け込み寺となりました。

**大学は良きシーズを持ち、企業のニーズが具体的に合えば両者は必ずと出会うもの**と確信しております。

どなたでも必要なときは遠慮なくセンターをコールしてください、何かしら問題解決の方策と一緒に探し、あるいは適切な相談相手をご紹介します。

2月～3月までの主要行事

日時・場所	行 事	概 要
2月9日(金) 14:00～17:00 ホテルシティプラザ北上	北上地域産業活性化講演会 主催：北上市 (株)北上オフィスプラザ	21世紀の地域産業像を創造する上で求められる、起業家人材の発掘・育成や産学官連携・異業種交流のあり、方それを支援する産学官の果たすべき役割を探る。 講演 1「新事業おこしを目指して-先駆者からのメッセージ」 (株)アルプス技研代表取締役会長 松井利夫氏 2「内発型産業振興のヒント-北上地域の今昔・未来-」 一橋大学商学研究科教授 関 満博氏
2月15日(木)～16日(金) 15日:10:00～17:35 16日:8:00～17:30 都道府県会館(東京都)	第102回産業立地研修会 主 催：(財)日本立地センター 対 象：地方公共団体の企画、地域開発担当者、商工団体、企業等	「まちづくりの仕掛人」と題し、日本各地でまちづくりに21世紀におけるまちづくりを検討する。 講演 1「市民起業家の夢をのせて(仮題)」 片岡 勝 2「伝統のまち足利の復活をかけて(仮題)」 中島条雄 3「札幌バレー、世界のIT拠点をめざして(仮題)」 吉村 匠 4「ものづくり・まちづくり(仮題)」 関 満博
3月21日(水) 14:00～17:00 レセプション 浄土ヶ浜パークホテル(岩手県宮古市)	宮古地域工業振興フォーラム 主 催：(財)いわて産業振興センター、 宮古市 対 象：東北管内企業、行政機関、関係機関等	地域の工業振興をテーマに、関満博教授の基調講演、宮古地域金型人材育成事業の報告、宮古工業高校のインターアップの報告、パネルディスカッション等を開催する。

上記についての参加・お問い合わせは、HY-Tec Net 連絡窓口へお問い合わせ下さい。

.....・編集後記.....

「HY-Tec Net 通信」の創刊号が、新世紀の幕開けと同時に発刊できました。お忙しい中、ご寄稿いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

会報の内容構成につきましては、HY-Tec Net 幹事会が編集委員会となってまとめたものであり、隔月で発刊(年間6回)の予定であります。創刊号は、ご寄稿いただいた皆様の熱意が溢れだし、項数も当初の予定を大幅に超え、文集並みのものになりました。今後の編集内容は、役員からのメッセージやHY-Tec Net の活動状況のお知らせ、本会の顧問である関先生・長平先生・高橋先生から各研究分野に関連したテーマ設定をお願いし、話題記事を掲載する予定であります。また、会員相互の理解を深めるため、「学」会員及び「企業」会員のPRコーナーを設け、秋田大学、秋田県立大学、秋田高専の先生方や、地域企業の自己紹介記事を掲載します。また、産学共同研究センター推進アドバイザーの渡部先生と中小企業支援センターの佐藤コーディネーターより日々の活動の感想などをエッセイコラムに交互に連載します。

創刊号は、表現技法が不慣れなため読みにくい、見にくいなどのご意見があるかと思いますが、テクニックの高度化と習熟に努力し、また、会員皆様からのアイデアや話題提供をいただき、紙面を充実していきたいと考えています。

編集委員：須藤一知(幹事長)、吉原敏郎、高橋幸治、佐藤隆、辻川新二郎、斎藤民一(幹事)

HY-Tec Net 事務局：(株)秋田新電元飛鳥工場内	TEL 0184-24-4206	FAX 0184-24-4226
HY-Tec Net 連絡窓口：本庄由利ハイテクコースト	TEL 0184-27-1401	FAX 0184-27-1468
(財)本庄由利ハイテクコースト	TEL 0184-23-5502	FAX 0184-23-5503